令和8年度　授業改善推進プラン　〈６年〉

小平市立小平第十五小学校

令和8年度学力調査の結果から
　全体の正答率を全国平均と比較すると、国語は+2.1%、算数は+5.6%となったが、東京都平均においては、国語は−2%、算数は−1%と下回った。
　その中で、国語では書くことの正答率が46.5%と他項目と比較すると低かった。文章全体の構成や展開を考えることに苦手意識をもっており、全体の約半分しか正解していない。また、自分の考えをまとめたり、書き表し方を工夫する記述式の項目では、正答率が52.1%となっており、全国平均から−4.2%、東京都平均から−2.8%と顕著に下回った。国語だけでなく、他教科でも、文章と図表を関連付ける活動や、情報を整理・統合する活動を通して、読解力とともに、自分の考えを書く力の育成を図っていく。算数では、人口密度に関する正答率が東京都平均を−5.5%と大きく下回った。加えて国語と同様に、記述式の正答率も他の問題形式に比べて低く、算数の用語を使って説明することが苦手な傾向がある。普段の学習で、自分の考えを友達に説明する機会を多くし、表現力を伸ばしていく。分数は、数直線や計算等、基礎・基本を身に付けられるように朝学習等で練習する。

	伸ばしたい力	具体的な改善策	改善プランの評価方法
国語	・目的に応じた自分の考えをもち、筋道を立てて文章に表す。	・語彙を増やしたり、比喩や擬態語等についても学んだり、作文の指導を充実させる。 ・自分の考えの根拠を、具体的な事例を入れたり引用したりしながら書くようにする。	・作文及び学習感想等が目的に応じて書かれているかで評価する。
	・情報の中から必要な情報を取捨選択して得ることや、情報同士の関係を捉え自分の発信したいことを表現する。	・子どもたちの能力にあった関連図書などを意図的に用意し、文章理解などを通じて得た知識を使って、学習課題を解決することができるようにする。	・ノート、ワークシート、ロイロの記述から評価する。
	・聞いて考えを深め、伝えたい相手を意識して活動する。	・継続的に話合い活動を取り入れ、対話の機会を増やす。 ・友達の意見の良さに目を向けたり、自分の考えと比べたりしながら聞けるようにする。	・対話活動、発言の様子で評価する。
社会	・調べ学習を繰り返し、すすんで復習する習慣を身に付け、自分の知識として蓄積していく。	・自分の考えを深める時間を設け、考えや意見をまとめることができるようにする。	・ノートやワークシートのまとめ方を中心に評価する。
	・資料や読み物から目的に応じた情報を読み取ったり、複数の資料を比較したりして、関連付けてまとめる。	・教科書や資料集、その他資料、インターネットの情報を活用し、ノートや新聞形式にまとめる活動に取り組ませる。	・ノートや新聞、及びワークテストの資料活用項目から評価する。
算数	四則計算、割合の計算、体積を求めること、公式を使って式に表すこと、グラフの読み取りや活用ができる。	・宿題や朝学習などにプリントや学習者用端末等を活用し、継続して練習に取り組むことで学力の定着を図る。 ・特に、分数×分数、分数÷分数の計算は確実にできるようにする。	プリントやドリル、ノート、ワークテスト、東京ベーシックドリル診断テストで評価する。
	問題に対する自分の考えをもち、他者に伝えたり表現したりする力を高める。様々な考えを比較しながら、よりよい考えを追求する。	・図や表などを使って表すことを継続して行わせる。 ・既習事項を確実に活用できるようにする。 ・習熟度別の学習形態を取り入れ、問題提示の仕方や解決方法に結び付く声掛けを工夫する。	授業中の活動の様子や発言内容、ノートの記述やワークテストで評価する。
理科	どの単元においても課題を意識して実験、観察計画を立てることができる。	・児童にとって身近な事象を導入時に取り入れ、児童全員に課題意識をもたせ、主体的に実験計画を立てられるようにする。	・ワークシートやノート、学習の様子から評価をする。
	実験の結果から考察を自分の言葉でまとめることができる。	・結果を図やイラストで詳しく書かせる。その結果から考えることを自分の言葉や図でまとめて書かせる。その後、考えたことを共有することで考えを深めさせる。	・ノートやワークシートの記述から評価をする。
音楽	リコーダーや器楽合奏で使用する楽器の基礎的な技能を習得し、自信をもって表現できる。	・リコーダーや器楽合奏の基礎的な奏法を、視覚教材で示し、個人練習、ペア練習の練習時間を設けて、繰り返し練習することを通して確実に習得できるようにする。	児童の演奏の様子を観察し、ねらいに達しているかどうかを評価する。
	歌唱表現するための基礎的な力を身に付ける。	・楽譜に記された記号に注目させ、身体を使って表す活動や友達と関わり合う活動を通して、曲の特徴を感じ取って言葉で表現する活動を取り入れる。	発言内容や活動の様子を観察し、ねらいに達しているかどうかを評価する。
図工	形や色、その組み合わせ、また材料の特徴を生かして、自分の思いを表現することができる。	・材料を試す時間や作りたいものを構想する時間を十分に設定し、参考作品や材料のヒントを与え、アイデアを具体化し、自分の思いを表現させる。	児童の活動の様子、製作過程、完成作品を評価する。
	友達の作品や身近な美術作品のよさや多様な表現に気付き、自分の思いを大切にしながら鑑賞する。	・友達の作品を鑑賞し、感じたことを意見交換させる。身近な美術作品の色や形、組み合わせの美しさ、多様な表現を鑑賞できるように、提示の仕方を工夫したり、視聴覚機器を活用したりする。	児童の活動の様子、鑑賞カードを評価する。
家庭	・生活をより良くしようと授業で学んだことを普段の生活に生かそうとする。	・日常生活の現状から、衣食住などの基礎的な理解を図り、授業で実践的、体験的な活動を行って技能を習得し、家庭でも実践できるよう計画を立てる。	・ワークシート、児童の活動の様子から評価する。また、家庭で実践したことについて自己評価させる。
	・友達の考えや作品の良いところを見付け、自分の考えや作品に生かそうとする。	・友達との交流を通して、互いの気付きの相違点を見付けたり認め合ったりし、よりよい生活について考える活動を取り入れる。	・製作の計画や振り返りの記述、児童の活動の様子で評価する。
体育	・一人一人が学習課題を立て、思考しながら運動することで技能を身に付けることができる。	・学習カードの記入や学習者用端末での動きの撮影や参考動画視聴を行うことで、それぞれの技能の段階にあった学習課題の解決に向かって活動をさせる。	・児童の動きの変化を観察したり、学習カードの記述を比べたりすることにより評価する。
	・取り組む運動領域に合わせ、ペア・トリオ・チームなど、友達と関わり合いながら、相互の力を高め合うことができる。	・友達と話し合い、作戦を考えて実行してみたり、互いにアドバイスをしたりしながら学習することで、お互いの力を高め合う。個人差に応じた場の設定やルール等を工夫する。	・授業中の児童の様子を観察したり、学習カードや動画記録の交流内容を確認したりして評価する。
	・課題にすすんで取り組み、適切な運動量を確保する。	・それぞれが身体を動かす場と時間を確実に確保し、意欲的に運動できる教材や学習形態を設定する。主運動につながる運動遊びなどの易しい運動を取り入れ、運動が苦手な児童でも体を動かす喜びを味わえるようにする。	・すすんで課題解決に向けて学習に向かっているかで評価する。
道徳	・互いの考えを交流しながら、自分の考えを深めていくことのできる力。	・相手の考えをよく聞き、さらに自分の考えをもう一度見直す活動を取り入れていく。ロイロノート等を活用し、他の児童の考えを効率的に取り入れていくことができるようにする。	・学習の様子や感想から評価する。
	・教材を通して感じた道徳的価値を、自分自身に置き換えて考える力。	・自分の立場に置き換え、教科書教材の内容と自分自身の考えを比較しながら考えさせる。考える時間を十分に確保する。	・学習の感想に加えて、実際の取組の様子など、学校生活全体からも評価する。
特活	・学校の代表としての自覚をもって校内の活動に取り組む。	・最高学年として果たすべき言動・行動について理解させ、自覚を促すことで、自主的・実践的に活動する力を育てる。	・活動の様子や振り返りの感想等で評価する。
	・自分のめあてだけでなく、学年としてのめあても考えて活動する。	・特別活動に関する行事実施の際には、学年全体のめあてをもつようにし、共通理解して活動に取り組むようにする。	・自らすすんで役目を担い、全体に寄与する活動が出来ているかで評価する。
総合	・学習課題を明確にもち、すすんで調べる。	・常に自己の課題を意識させつつ、資料を活用して、課題に迫ることができるようにする。課題をどのように追及するかその方法について、個々の支援の充実を図る。	・学習時の活動の様子や、調べ学習メモから評価する。
	・探究的な活動を意識し、伝える相手を意識して、調べたことをまとめ、発表する。	・伝える相手を意識して、発表原稿や資料を工夫して作ることができるようにする。	・発表・発表原稿・資料などの成果物と態度で評価する。
外国語	・英語活動に興味関心をもち、すすんで学習する。	・ゲーム、歌、チャンツなどを取り入れて英語学習に興味関心をもてるように工夫する。また、挨拶や自己紹介など簡単な会話を自信をもってできるように、繰り返し練習する。近隣大学の留学生との交流機会を設定し、学習したことを使って交流活動することで、異文化に対する理解を深める。各単元での見に付けたい言葉等、ゴールを示し、必要な言葉や表現方法について主体的に学べるようにする。	・学習時の活動の様子や、振り返りワークシートに書いた内容から評価する。
	・日常生活で使う基本的な文や言葉を聞き取ったり、話したり、模写したりする。	・ALTの正しい発音を聞かせる機会を多く設定する。 ・One world Smilesやデジタル教科書等の視聴覚教材を活用する。 ・四線紙を使い、正しいアルファベットの書き方を学ぶ。 ・中学校の接続を意識し、特に書く活動を計画的に授業に入れ、確実な大文字、小文字、単語の定着を図る。。	・学習時の活動の様子やワークシートの内容から評価する。ALT協力のもとパフォーマンステストを実施する。